

モジュール型中級後期教科書の学生による評価（3）

宮内 俊慈

要旨

関西外国語大学留学生別科の中級後期のクラスにおいては、2008年度より本校教員の高屋敷（2012）により開発されたモジュール型教科書を使ってきた。当教科書は、ドラマを対象としたUnit 7を除き全6ユニットから成り立っているが、2014年の夏にUnit 1の改訂を行い、秋学期に試用を行い学生の評価を実施した。続く2015年の夏にはUnit 6の改訂を行い、その秋から試用を始め、この中級後期の教科書に対する学生間の評価を調査し、その結果を前回（25号）の紀要で報告した。さらに、2016年の夏にUnit 4の改訂を行い、秋学期に試用し学生への調査を行った。本稿で、その調査結果の詳細の報告をする。

【キーワード】 モジュール型教材、接触場面、ディスカッション

1. はじめに

関西外国語大学留学生別科においては、2008年秋学期（9月～12月）より中級後期の日本語クラス（日本語6: Japanese 6、以下、JPN6）のメインテキストを独自に開発し使用してきた。開発は、本校教員の高屋敷（2012）が行い、モジュール型教材が採用された。モジュールというのは、岡崎（1989）によれば、「教科書のように特定の順序に沿って一つ一つの課を学習するタイプの教材とは違い、学習者が既に学習し終わっている項目から一定程度独立して使えるようにした教材」である。高屋敷（2012）はこのモジュール型教材を採用した理由として、中上級レベルでは学習項目の提出順序を積み上げ方式で行っていく必要性が低いことと常に変化する学習者のニーズに柔軟に対応できることの二つを挙げている。

こうして開発されたJPN6の教科書であったが、社会情勢の変化と共に実際と合わない状況が出現し、途中で内容が変更されたものがあり、筆者が担当した2012年の

秋学期の時点での各ユニットのタイトルは、以下のようになっていた。

Unit 1 「Mixi、やってる？」

Unit 2 「交通機関のマナー」

Unit 3 「夫？主人？」

Unit 4 「ユニクロ、MUJI は海外で成功するか？」

Unit 5 「インターネットは人類を幸せにしたか？」

Unit 6 「外国人労働者、受け入れますか？」

2014年の夏に Unit 1 のトピックを LINE にすることにしてメインダイアログを改訂した。そして、その秋学期より新しい Unit 1 の試用を始め、Unit 4 まで終了した中間試験が終わった段階で学生間の教科書に対する評価をアンケート調査した。その詳細を報告したのが前々回の紀要の報告である（宮内 2015）。

2015 年は、Unit 6 の改訂を行った。この時の改訂の候補としては、Unit 4 「ユニクロ、MUJI は海外で成功するか？」と Unit 6 「外国人労働者、受け入れますか？」の 2 つが挙げられたが、最終的には Unit 6 が改訂されることになった。決定された経緯については、詳細が前回の紀要（宮内 2016）で報告されている。

今回の改訂は、前回の改訂の候補として挙げられたもう一方の Unit 4 に着手することにした。Unit 4 が改訂対象となったのは、2014 年の調査でも学生間のトピックに対する興味が一番低く、さらに 2015 年の調査でも同様の結果が出てきたことが決定的であった。

改訂作業は前回の改訂の時と同様に、本文ダイアログの作成、単語リストの作成は高屋敷が担当し、それ以降のテキストとしての編集作業は筆者が担当した。改訂の内容も前回の Unit 6 の改訂の時と同じように、ユニットの中で取り上げた文型はそのままにし、既存の単語リストもできる限り変更を加えずに行った。そのため、文型の説明パートや文型練習のパートは大幅な変更をすることなく改訂することができた。

2. 改訂内容

今回改訂された主なものは、Unit 4 のメインダイアログである。ここでは、その改訂前のもの（図 1）と改定後のもの（図 2）を転載する。

2.1 改訂前のダイアログ

図1 改定前のダイアログ

Unit 4 ユニクロ、MUJIは海外で成功するか？

会話1 【ジョンが日本事情のクラスで発表中】

ジョン： 皆さん、今日は日本式のファストファッション、ユニクロや無印良品がアメリカでも成功するかということについて発表したいと思います。皆さんは、ユニクロや無印で服を買ったことがありますか。

アン： はい、ユニクロのTシャツを買ったことがあります。

ジョン： どうして、ユニクロで買ったんですか。

アン： そうですね…、いろいろな色とデザインがあって、ちょっと見てみたら、かわいいのがあったので、買いました。それに、1000円で、とても安かったんです。

ジョン： そうですか。ユニクロの店について、アンさんは、どう思いましたか。

アン： ええと、アメリカのオールドネイビーという店と同じようだと思います。オールドネイビーも同じような服を低価格で売っているんです。

ジョン： なるほど。ユニクロは、2006年にニューヨークのソーホー地区にチェーン店をオープンしました。それから、衣類やインテリア用品を専門に扱う無印良品 (MUJI) もニューヨークに1号店をオープンしたそうです。皆さん、どう思いますか？ このように、ユニクロやMUJIなどは、米国の衣料品・インテリア市場に進出しようとしているんですが、海外でも成功すると思いますか。

まり： はい。私は、成功できると思います。ロンドンにもMUJIの店があるんですが、私のロンドンの友達も、よくMUJIに行くそうです。MUJIは、ロンドンでは、けっこう人気があるみたいです。シンプルなデザインが受けているようです。

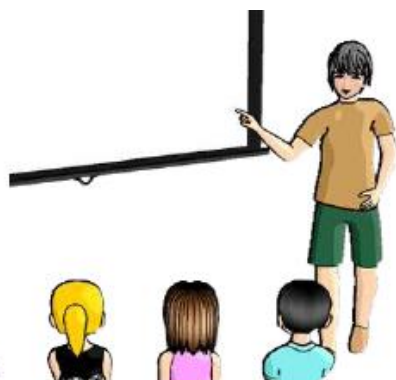
ジョン： なるほど、けれども、ユニクロにしよ、MUJIにしよ、スウェーデンのH&MやスペインのZARAなどすでに世界的に成功しているファストファッションの衣料品チェーン店に比べると、まだブランドとして認知されていないと思いますが、どうでしょうか。

アン： はい、ジョンさんの意見に賛成します。それに、日本の服の特徴は、かわいさやシンプルさだということだと思いますが、デザインが全体的に地味だと思います。欧米の女性は、もっと原色を使ったり、派手な模様が好きだったりすると思うので、私は、あまり成功しないのではないかと思います。

会話2 【ジョンの発表でディスカッション】

ジョン： 皆さん、ご存知のように、トヨタ、ホンダ、ソニー、パナソニックといった日本の自動車や電子機器などの製造業は、今まで、世界の市場を席卷してきました。しかし、衣料品やインテリア関係の分野に進出しようとした日本企業は、ほとんど失敗してきました。ですから、ユニクロやMUJIがニューヨークで成功すれば、画期的な出来事になると思います。

けん： はい。アメリカでは、業者間の競争が激しく、新しい企業が進出するのは難しいと聞いています。



ジョン： そのとおりです。では、ユニクロやMUJIの戦略について説明します。それは、競争相手よりもっと安くもっとおしゃれな商品^{しょうひん}を売り出すこと、それから、ポップ・カルチャーやオタク・カルチャーの発信地としての日本の高い評価^{ひょうか}を利用すること、この2点です。

まり： はい。これも、海外の友達に聞いたんですが、EVISという日本製^{にっぽんせい}ジーンズは、一本3万円以上もするのに、流行^{りゅうぎょう}に敏感な外国人の間で飛ぶように売れているそうです。

ジョン： EVISのジーンズは、確^{たしか}にかっこいいと思いますが、それにしても、3万円はちょっと高いような感じがしますね。

けん： ユニクロでは、日本の漫画^{まんが}のキャラクターがプリントされたTシャツがとても人気が高いそうです。

ジョン： そうですね。このところ、東京^{とうきょう}の原宿^{はらじゅく}や秋葉原^{あきはばら}は、日本のキャラクター商品^{しょうひん}が好きな海外からの観光客^{くわんこうきゃく}に非常に人気があるそうですね。



会話3 【発表の後、ラウンジで】

ジョン： 発表、どうだった？ すごく緊張^{きんじょう}しちゃったよ。

けん： 大丈夫！ とても面白かったよ！

まり：ほんと、よかったよ！ でも、ユニクロの服は、アメリカで売れているのかなあ…？

アン： そうね…、大々^{たいたい}的に宣伝^{せんでん}したわりには、駄目^{だめ}みたいよ。私は、日本企業^{にっぽんぎやう}のアメリカでの成功^{せいこう}は、アメリカの消費者^{しょうひやう}に対する戦略^{せんりゃく}次第^{さいだい}だと思うの。アメリカの消費者^{しょうひやう}が何を望^{のぞ}んでいるかもっと考えなくちゃだめだと思うの。日本で売れている物がアメリカでも売れるとは限らないでしょう？

ジョン： うん、そのとおりだと思う。アメリカ人のニーズや要望^{ようぼう}に沿^そわなくちゃいけないと思う。

けん： うん、賛成！

ジョン： だから、アメリカのユニクロでは、袋^{ふくろ}に入っている下着類^{したぎるい}の生地^{きじ}を実際に触^{さわ}ってみたいというアメリカ人の要望^{ようぼう}を聞いて、袋^{ふくろ}から出してラックにかけるようにしたんだって。

アン： へえー、そうなんだ。アメリカ人のリクエスト^{くわえすと}に応^{こた}えて、いろいろ工夫^{くわふ}してるってわけね。

ジョン： うん、そう。「郷^{きょう}に入^いっては郷^{きょう}に従^{したが}え」ってことかもね。

MUJI
無印良品

2.2 改訂後のダイアログ

改訂後のトピックとしては、「和食」「日本食」に関するトピックを取り上げることにした。その際に、2014年、2015年のアンケートにおける「今後取り上げて欲しいトピック」の学生の応答を参考にした。しかし、改訂によって「ユニクロ」のトピックを止めてしまうと「全6ユニットの中でビジネスに関する話題がなくなってしまうので、全6ユニットのバランスを考え、「和食」に関するビジネス関連の話題になるように考慮した」(高屋敷、宮内 forthcoming)。その結果、「『ユニクロ』の世界進出

は成功したかという話題に代わるものとして、世界的な和食ブームを背景とした日本の
 の外食産業の世界進出は成功しているか」(高屋敷、宮内 forthcoming) という内容で
 本文が書き換えられた。実際のダイアログは、図2の通りである。

図2 改定後のダイアログ

Unit 4 和食ブームって本当？

会話1 【ジョンが日本事情のクラスで発表中】

ジョン： 皆さん、今日は和食が世界中でブームになっている
ということについて発表したいと思います。
 皆さんの国には、日本食レストランがありますか。
 そこで食べたことがありますか。
 自分の国で、和食は流行していますか。

アン： はい、私はオーストラリア出身ですが、
 シドニーにはたくさんあります。寿司やラーメン、
 色々な日本食レストランがあります。

ジョン： シドニーで人気がある店はどんな店ですか。

アン： そうですね…、スタンドバーから本格的な高級レストランまで色々ありますが、ラーメン屋が
 とても流行っています。それに、寿司ロールの持ち帰りの店や居酒屋も人気があると思います。

まり： 寿司ロール？ それって、巻き寿司のことですか。

アン： あ、はい、そうです。でも、皆さん、ご存知かもしれませんが、日本の巻き寿司と中身がちょ
 っと違って、星の魚を巻くのじゃなくて、かにかまぼこをとアボカドを入れたカリフォル
 ニアロールとかツナマヨとか焼いたチキンが巻いてあるような寿司が人気なんですよ。

ジョン： なるほど。それはアメリカでも同じです。ニューヨークのマンハッタンとかにも寿司を専門に
 扱うチェーン店がたくさんありますよ。他にも、やっぱり、ラーメン屋をはじめ、居酒屋、定食
 のお店の大戸屋、焼肉の牛角、とんかつ屋なども大人気みたいです。

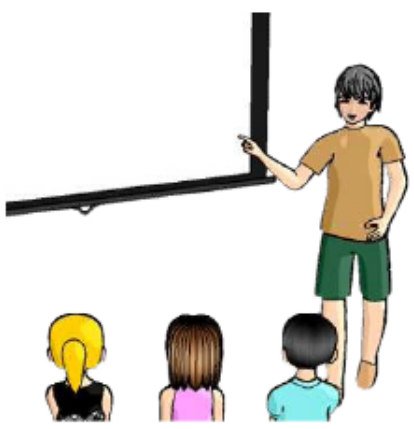
皆さん、どう思いますか？ このように、日本食企業のチェーン店は、米国の外食市場にたく
 さん進出しているんですが、アジアやヨーロッパなどで成功していると思いますか。


まり： はい。私は、成功していると思います。中国やタイにはカレーのCOCO老番屋の店がたくさん
 あるんですが、私のバンコクの友達、よくココイチに行くそうです。ココイチは、バンコク
 では、けっこう人気があるみたいです。日本の店と違って、ちょっと高級な感じにしている
 のが受けているようです。それに、日本にはないトッピングを作ったり、辛さを選べるよう
 にして、タイ人のリクエストに添って、色々、工夫しているそうです。

ジョン： なるほど、大戸屋にしる、COCO老番屋にしる、その国の人達の味覚や嗜好に合わせて多様
 化しているってわけですね。

会話2 【ジョンの発表でディスカッション】

ジョン： 皆さん、ご存知のように、トヨタ、ホンダ、ソニー、パナソニック、
 や電子機器などの製造業は、今まで、世界の市場を席卷して
 きました。では、和食ブームは、どうでしょうか。これから、
 日本食ブームは、世界にますます広がっていくと思いますか。





けん : はい。和食は、日本の伝統的な食文化として、2013年にユネスコの無形文化遺産にも登録されて、世界でも健康的な食生活だと認知されてきていると思います。



ジョン : ユネスコの無形文化遺産?? ああ、UNESCOのWorld Intangible Cultural Heritageのことか…。登録の理由って、何だろう？

まり : ご飯とみそ汁と魚と野菜を中心とした日本の伝統的な食生活は、油を使いすぎず、健康的で、理想的な栄養バランスだと言われているからです。ヘルシーな食生活に敏感なアメリカやイギリスのセレブの間でも人気があるみたいです。

ジョン : 確かに、ステーキやハンバーガーに比べると、健康的かもしれませんが、それにしても、和食は、本当に体にいいのでしょうか。日本食と言っても、天ぷらやとんかつは、カロリーが高いだろうし、そんなに健康的ではないような感じがします。



まり : 確かに、寿司も油を使っていないわりに、ダイエットには向いていないかもしれません。野菜が少ないし、ごはんを食べすぎると、逆にカロリーが増えてしまうと思います。

けん : そうですね。日本食と言えば、健康的というイメージがありますが、本当の和食は、かつお節や昆布で「だし」をとって、作ります。回転ずしやラーメン、カレーライス、化学調味料をたくさん使って、ファーストフードのようになってしまっているかもしれません。



ジョン : 賛成です。和食だからと言って、何でも健康的だとは限らないのではないのでしょうか？

会話3 【発表の後、ラウンジで】

ジョン : 発表、どうだった？ すごく緊張しちゃったよ。

けん : 大丈夫！ とても面白かったよ！

まり : うん、すごくいいディスカッションだったよ！

ジョン : まじで？ よかったあ。ありがとう！

けん : でも、和食って、本当に世界中でブームなのかなあ…？

ジョン : そうだな…。それは、やっぱり、何を「和食」と呼ぶかという考え方次第だと思うけど…。ココイチや回転寿司なんかは伝統的な「和食」とは呼べないんじゃないかな。

まり : うん、そのとおりだと思う。昔の日本人が家で食べていた、ごはん、しっかりだしをとって作ったみそ汁と煮物などのおかず、それに漬物という食事が本当の和食じゃない？

けん : うん、賛成！ でも、やっぱり、海外に進出して行くには、その国の消費者のニーズや要望に沿わなくちゃいけないと思う。

ジョン : うん、そうだね。ブラジルには、マンゴーを巻いたフルーツ寿司があるそうだよ。

アン : あ、オーストラリアにも、日本人が経営していないお店では、寿司と焼き鳥セットとか、日本では見たことない変なメニューがあるけど、けっこう人気あるよ。

けん : そっか。おもしろいね。「郷に入っては郷に従え」ってことかもね。

前回の改訂の際（宮内 2016）と同様、ダイアログの変更は行ったが、その中で扱う表現は変えない方針で改訂を行った。今回変更の対象であった Unit 4 で扱っている表現は、以下の 7 つである。図 1 と図 2 の両ダイアログを比較してみれば、これらの表現が共通して出現していることが見て取れる。

「(Noun) 次第だ」

「X にしろ Y にしろ、どっちにしろ」

「～わりに (は)」

「S1。それにしても、S2。」

「～ような気がする」

「～とは限らない」

「S という Noun」

さらに、「食」に関するトピックに変更されたことで「栄養」「カロリー」など、どうしても使用する単語が「食」に関連するものが多くなったが、「進出する」「席卷する」など、共通して使えるものは使うようにし、できる限り変更がないように考慮した。

3. アンケート調査

3.1 調査対象

以前の 2 回の調査と同様に、今回の改訂に伴いアンケートを実施し、学生の反応を確かめることにした。対象の学生は 2016 年秋学期（9 月～12 月）の JPN6 の全学生である。アンケートは、学期がほぼ終了する 11 月に授業時間の終わりの 15 分程度を利用して実施した。この学期の JPN6 の学生は 22 名（男：9 名、女：13 名）おり、欠席者を除く 20 名が参加してくれた。アンケートは無記名で実施し、出身国の記述も依頼しなかったため参加した学生の出身国のデータは不明である。

3.2 調査内容

調査は、前回（宮内 2016）と同じく、教科書全体に対する質問（3 問）と各ユニットに対する評価（14 問 x 6 ユニット = 72 問）があり、全 87 問であった。全体的な質問としては、「教科書(Packets)は全体的にいいと思う」かどうか、今後「取り上げて欲

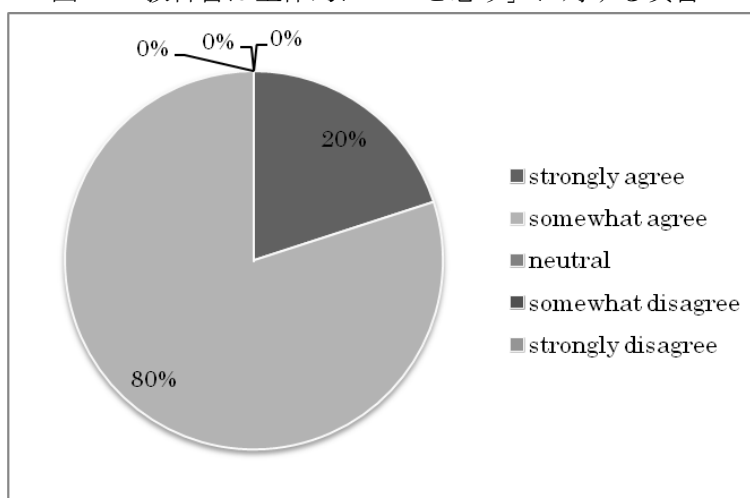
しいトピック」は何か、さらに、JPN6 の教科書に対する「Free Comment」を尋ね、ユニット毎の項目としては、取り上げられている「トピックは面白いと思う」かどうか、ダイアログの内容、長さ、難しさ、語彙の多さ、難しさ、練習内容、表現説明の内容、聞き取り練習の内容など 14 項目に渡って詳細に尋ねた。実際のアンケートは前回の報告の添付資料として挙げてある（宮内 2016）。

3.3 調査結果

3.3.1 教科書全体に対する質問

まず、教科書全体に対する感想（質問(1)）を求めたが、その結果が図 4 である。その結果、“strongly agree”と“somewhat agree”を合わせて 100%の学生、つまり、20 名全員が「いいと思う」という評価であった。したがって、“strongly disagree”と“somewhat disagree”は、いずれも 0%で 20 名中「悪い」と評価した学生は誰もいなかった。前回の調査でも 87%が好意的な反応であったが、それ以上に、JPN6 の教科書の好感度が高い結果を示した。

図 4 「教科書は全体的にいいと思う」に対する賛否



3.3.2 ユニット毎の質問

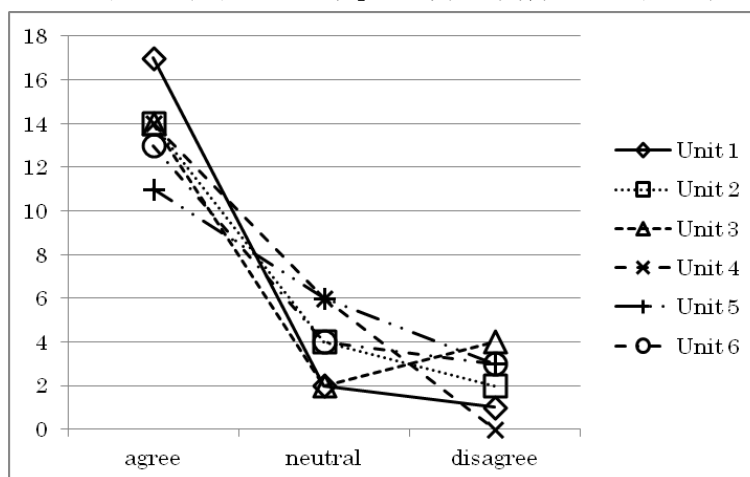
3.3.2.1 トピックについて

ユニット毎にトピックが違うので、それぞれのトピックのついて「面白いと思う」かどうかを尋ねた（質問(2)）。ユニット毎の比較を表すグラフが図 5 である。6 ユニット全てにおいて、“agree”が “disagree”を上回っており、特に Unit 1 (“agree”=17 名：

85%、“disagree”=1名：5%)、Unit 2 (“agree”=14名：70%、“disagree”=2名：20%)とUnit 4 (“agree”=14名：70%、“disagree”=0名：0%)の人気の高いことが分かる。Unit 1は「LINE、やってる?」というトピックで、2014年に改訂したものであるが、その後の2回のアンケート調査いずれにおいても高い人気を示した(2014年：“agree”=80%、“disagree”=10%、2015年：“agree”=79.2%、“disagree”=0%)が、今回もその人気は維持された。現在日本では、大学生だけではなく一般の人でも子供でもLINEを利用して多く、留学生の多くがSNSと言えればFacebookというのとは少し事情が違っており、その文化的な違いが興味を喚起しているのではないと思われる。自国の友達とはFacebook、日本人の友達とはLINEといった使い分けをしている留学生も珍しくないということもこのトピックに人気があることと無関係ではないであろう。

Unit 2は、「交通機関のマナー」というタイトルで、公共の場所におけるマナーを扱ったトピックである。このトピックも2015年の調査では、3番目に人気があったが、2014年の調査では、20名中19名(95%)の学生が好意的な反応を示した。こうした文化の違いに関するトピックは、身近な話題であり取り組みやすくコンスタントな人気を維持できるものと思われる。

図5 「トピックは面白いと思う」に対する賛否のユニット毎の比較



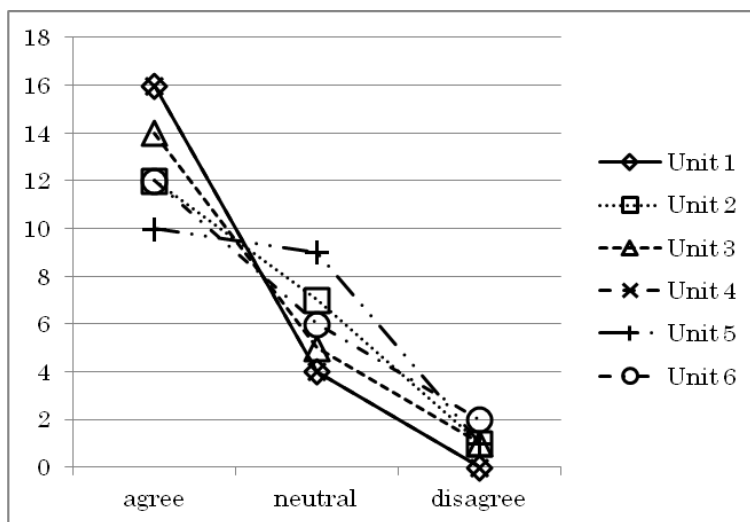
Unit 4は、今回改訂の対象となったトピックである。改訂の方針から「食」の文化的な側面よりも「食ビジネス」といった観点からのダイアログになったにもかかわらず、「おもしろい」と感じた学生が多く、さらに、「おもしろくない」と思った学生が一人もいなかったことで、今回の改訂プロジェクトは、学生の関心という観点におい

ては成功裡に終わったと言えるだろう。

3.3.2.2 ダイアログの内容について

次に、ダイアログの内容についての評価を尋ねた(図6)。これは、すなわちダイアログの品質の良否に関する質問である。学生がそのトピックに興味があるかという観点ではなく、ダイアログの内容の良し悪しについてどう思っているのかを見る質問である。ここでも、どのユニットにおいても“agree”が“disagree”を上回っており、特に、Unit 1とUnit 4に対する評価が高かった(いずれのユニットも20名中16名が“agree”: 80%)。また、Unit 1、Unit 4いずれに対する評価も“disagree”と答えた学生は0名であった。次いで、Unit 3に対する評価も高く、20名中14名が“agree”(70%)の評価であった。Unit 3は、「夫?主人?」というタイトルで日本語で、“husband”のことを“master”という意味も持つ「主人」という言葉で呼ぶといった「ジェンダー問題」を扱ったトピックである。このアンケートでも、最近では、LGBTを取り上げて欲しいというコメントもよく見られ、「ジェンダー問題」に関する内容に対しても関心の高さが読み取れる。

図6 「ダイアログの内容はいいと思う」に対する賛否のユニット毎の比較



一方、Unit 5については、“agree”が10人(50%)、“disagree”が1人(5%)であった。このユニットについては、先の「面白さ」の評価についても6ユニット中最下位で、学生間における関心の低さが見られた。タイトルは「インターネットは人類を幸

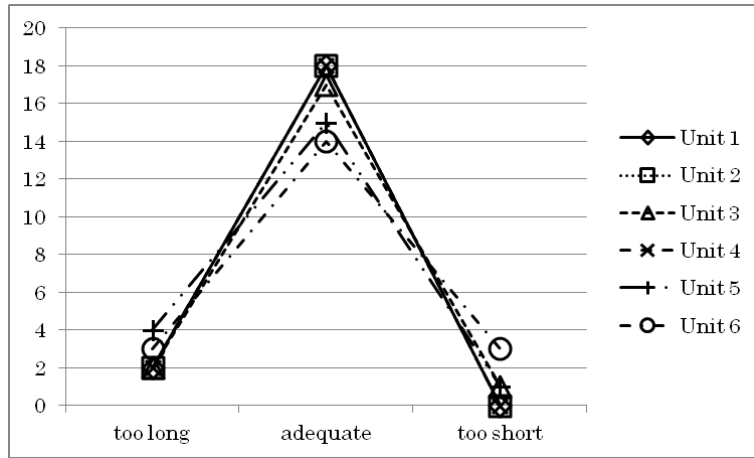
せにしたか？」で、「インターネットで確かに生活は便利になったが、果たして人々を幸福にしてくれたのか」というテーマを扱ったユニットである。このトピックは、Unit 1 と扱っている分野が似通っているにもかかわらず、学生の評価は低かった。どうしてこういう結果になったのかを考察してみると、次のことが言えるように思われる。

インターネットの普及は、1990 年代の後半に始まり、その後、急速に拡大した。そして、今の大学生にとっては、もはやインターネットは特別なことではなく生活の一部である。従って、今更その存在に疑問を感じることはなく、存在していて当然のものとなっていると言える。例えば、「電話が誕生したことで生活は便利になりましたが、それで皆さんは幸せになりましたか」と言われても、現代人にはピンとこないであろう。同じように、今の大学生にとって、インターネットがあることの価値を改めて考えるということは、それ程多くの興味を惹きつけないのではないかと思われる。Unit 1 と扱っている分野が近いということも鑑み、Unit 5 が次回の改定対象となりそうである。

3.3.2.3 ダイアログの長さについて

次に、同じくダイアログについて、その長さについて尋ねた（質問(4)）。ユニット間の比較を表すグラフが図 7 である。長さに関しても、どのユニットにおいても“adequate”が“too long”、“too short”を抑え最も多くなっている。ただ、Unit 5 と Unit 6 は“adequate”の評価が他のユニットに比べて低く（Unit 5 = 75.0% (20 名中 15 名)、Unit 6 = 70.0% (20 名中 14 名))、さらに、Unit 5 では、“too long”という評価が 20% (20 名中 4 名) で一番多くかった。おもしろいことに、Unit 6 は、“too short”の評価と“too long”の評価が同数であった（15% : 20 名中 3 名）。Unit 6 は前回 2015 年の改訂ユニットであり、その後のアンケート調査では、“too long”という評価が 45.8% (24 名中 11 名) で、「明らかに『長い』と感じている学生」が多かった（宮内 2016）のだが、今回は意外な結果となった。実際のユニット毎のダイアログの文字数を見てみると（表 1 参照）、Unit 5 が一番短く、Unit 6 が一番長い。実際の長さと感じて感じる長さが必ずしも一致しない例として挙げるができるのかもしれない。別の要因としては、今学期の学生は、ビジネスに関心のある学生が多く、Unit 6 の「就活って、何？」というビジネス関連のトピックを苦に感じなかった学生が、前回の調査時に比べて多くいたことが考えられる。

図7 「ダイアログの長さ」に対する評価のユニット毎の比較



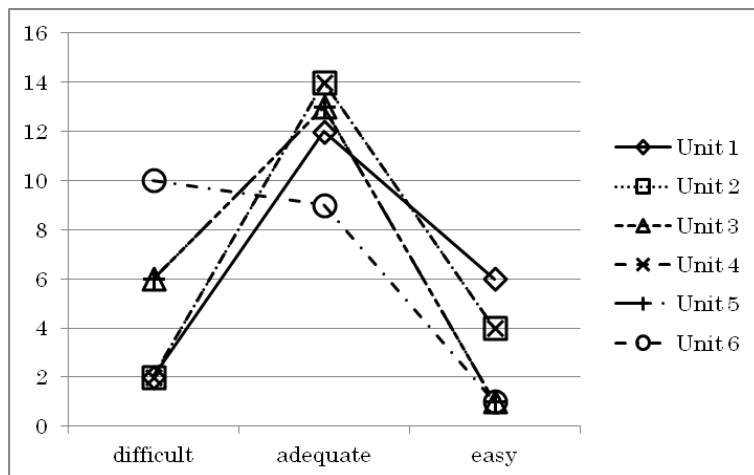
Unit	Unit 1	Unit 2	Unit 3	Unit 4	Unit 5	Unit 6
文字数	2,759	1,952	2,143	2,473	1,791	3,683

表1 ダイアログの文字数の比較

3.3.2.4 ダイアログの難しさについて

次に、同じくダイアログについて、その難しさについて尋ねた（質問(5)）。ユニット毎の比較を表すグラフが図8である。

図8 「ダイアログの難しさ」に対する評価のユニット毎の比較



このグラフを見れば、Unit 6 が他の Unit と全く違う状況にあることが一目瞭然である。つまり、このユニットだけが、“difficult”（20名中10名：50%）が“adequate”（20名中9名：45%）を上回っている。前節の「長さ」に関しては、実際の長さに対して「長い」と感じる学生が多いわけではなかったが、この難しさに関しては、学生の内の半数が「難しい」と感じていることが明らかとなった。Unit 6 は、「就活って、何？」というタイトルで、前回 2015 年度の改訂対象となったところである。「就活」を取り上げたトピックなので、語彙的にも、「内定する」「転職する」「採用する」などといった普段の会話では使わない馴染みの薄い言葉も多く含まれ、ダイアログの長さともいまって難易度が高まったものと思われる。

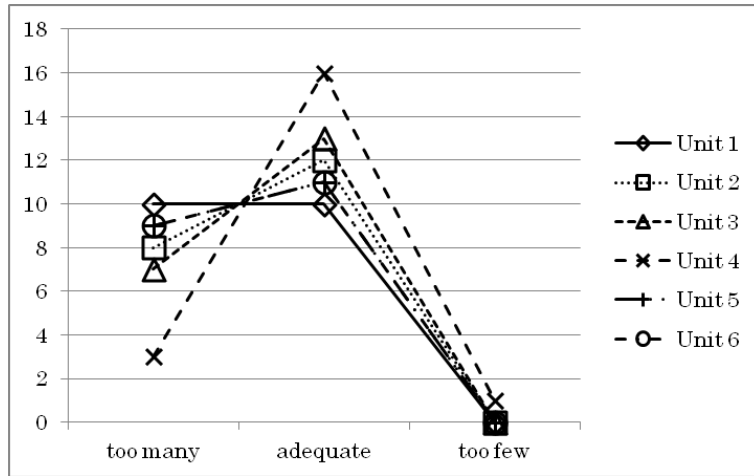
3.3.2.5 単語の数について

次に、単語の数について、その多さについて尋ねた（質問(6)）。ユニット毎の比較を表すグラフが図 9 である。単語リスト上の実数は、表 2 に示した通りである。“too many”と“adequate”とする回答が拮抗しているユニットが多いが、ここで特異なのは、Unit 4 である。単語の実数は、Unit 1、Unit 2 よりも少なく、Unit 3、Unit 5、Unit 6 よりも多いのだが、“too many”の回答が 3 名で最も少なく、“adequate”の回答が 16 名で最も多かった。Unit 4 は、今回改訂の対象のユニットで、「和食ブームって、本当？」というタイトルであった。語彙としては、「嗜好」「高級」「進出する」「席卷する」などやや難しい言葉も入っているが、「居酒屋」「外食」「持ち帰り」「煮物」など日常会話でも出てきそうな言葉があって、数の割には学生の中に抵抗感がなかったのかもしれない。単にリスト上の数だけで、単語の多さを測ってはいけないということだと言えるだろう。前回の報告では、「覚えるべき単語の数を 50 程度に絞り込んでいった方がいい」という提案を打ち出した（宮内 2016）が、どういう語彙を入れるのかという中身まで考慮に入れる必要があるということである。

Unit	Unit 1	Unit 2	Unit 3	Unit 4	Unit 5	Unit 6
単語数	76	77	49	72	68	62

表 2 単語リスト上の単語数の比較

図9 「単語の数」に対する評価のユニット毎の比較

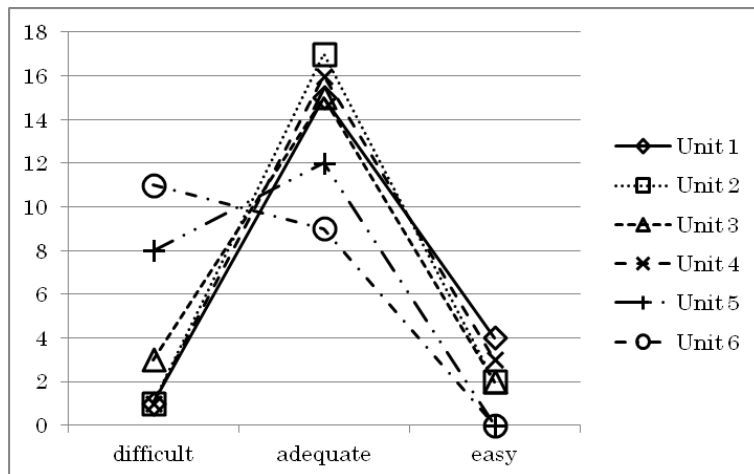


3.3.2.6 単語の難しさについて

次は、同じく単語について、その難しさに対する評価を聞いた（質問(7)）。ユニット毎の比較を表すグラフが図10である。

ここでも、Unit 6以外のどのユニットも“adequate”の回答が一番多かったが、Unit 6に関しては、ダイアログの難しさと同様に語彙に対する難しさを感じていることが見て取れる。Unit 6は、前節の単語の実数から言えば2番目に少ないにもかかわらず、馴染みの単語が少ないということから難易度が上がっているように思われる。「就活」関連ということもあり、留学生たちに普段の会話で使わない単語がどうしても多くなり、難しく感じてしまうということが背景にあるようだ。

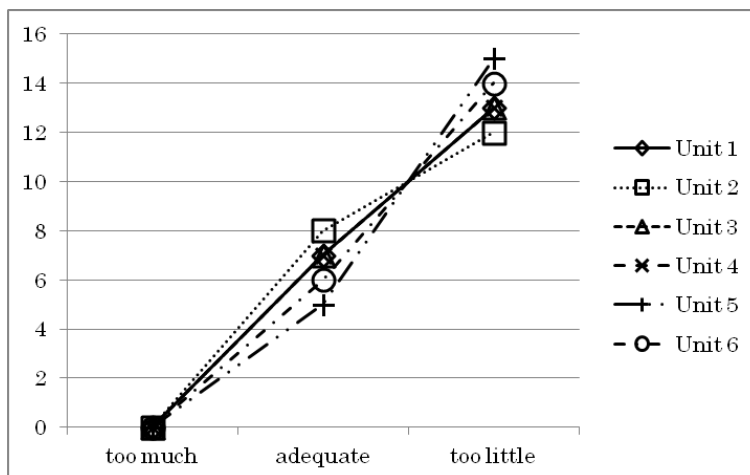
図10 「単語の難しさ」に対する評価のユニット毎の比較



3.3.2.7 単語の練習の量について

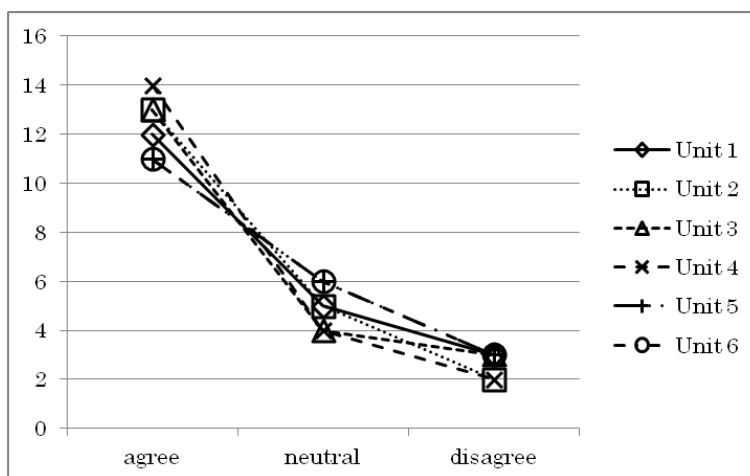
各ユニットでは、表現練習だけではなく、単語練習の時間も取り入れている。その練習量について聞いた（質問(8)）。ユニット毎の比較を表すグラフが図 11 である。ここでは、全てのユニットにおいて“too little”の回答が最も多い結果となった。授業計画としては、新しい表現の練習が中心となってしまうため、授業時間中に単語練習に充てる時間はどうしても少なくなってしまう。単語を使う練習は、授業外での学生の自主練習に任せていることがこのような結果になったものと思われる。

図 11 「単語練習の量」に対する評価のユニット毎の比較



3.3.2.8 単語の練習の内容について

図 12 「単語練習の内容の良否」に対する賛否のユニット毎の比較

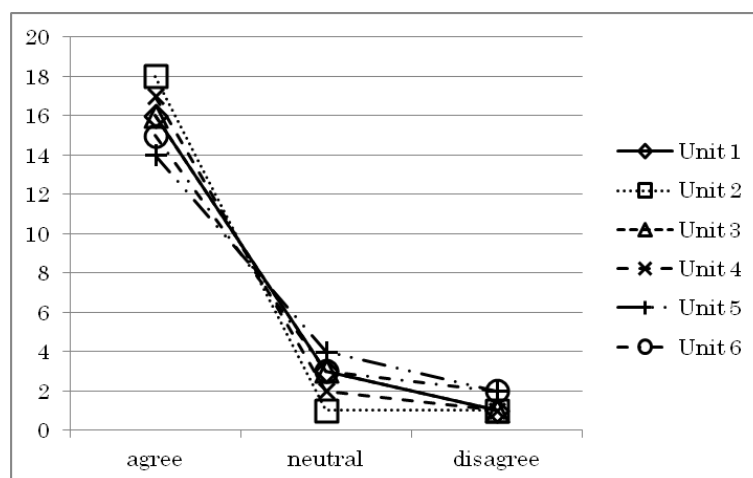


その単語練習の内容について聞いたのが次の質問である(質問(9))。「単語練習の内容はいいと思う」という意見に“agree”か“disagree”を尋ねた。ユニット毎の比較を表すグラフが図 12 である。全てのユニットにおいて“agree”が“neutral”および“disagree”を上回っていて、練習内容そのものには満足しているようである。前節の「練習量が少ない」という意見とは対照的な結果となっている。前節の結果と合わせて分析すると、単語練習の時間を確保することによって、満足度の向上につながるものと思われる。

3.3.2.9 表現の説明について

表現説明の良し悪しに関する評価を聞いたのが次の質問である(質問(10))。ユニット毎の比較を表すグラフが図 13 である。

図 13 「表現の説明の良否」に対する賛否のユニット毎の比較



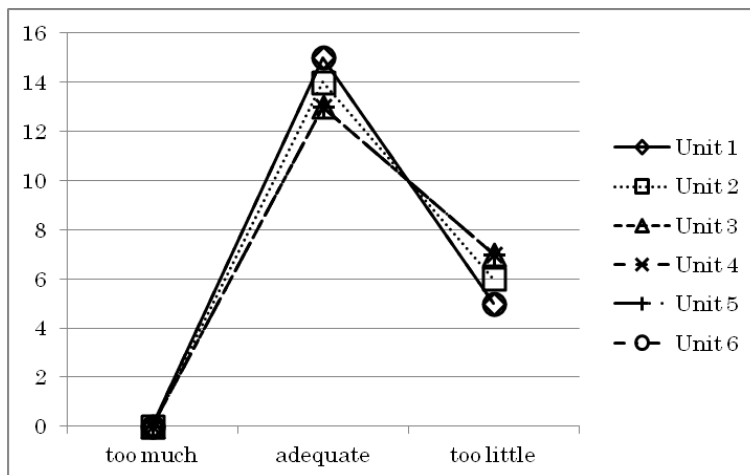
ここでは、前節の「単語練習の良否」以上に高い評価が得られた。「説明に満足できるか」という質問に対して、“agree”が全てのユニットにおいて70% (20名中14名)を超え、かつ、“disagree”が10% (20名中2名)以下となった。このアンケートの目的は、教科書に対する評価を求めて実施したものであるが、学生はそうは捉えていないようである。つまり、教科書ではなくこのコース全体の評価をしているように感じられた。授業の中で一番時間をかけているのが、新出の「表現の説明」である。したがって、この項目に対する評価が高いからと言って、教科書の説明が満足できるものなのか、それとも、インストラクターの説明がうまくできているということなのか、

いずれの理由によるものかを判断することはできない。実際、学生のフリーコメントとして、「The explanations in the packet were okay. Sometimes, the English was a bit difficult to understand. However, because the instructor does a great job at explaining the grammar in class, it's okay. If it weren't for his explanations, then the book is only “neutral level」とあり、この項目の評価がインストラクターの力に大きく影響されていると言えよう。

3.3.2.10 表現説明の例文の量について

その説明文の例文の量について聞いたのが次の質問である（質問(11)）。ユニット毎の比較を表すグラフが図 14 である。

図 14 「表現説明の例文の量」に対する評価のユニット毎の比較



この質問をアンケートに含めたのは、筆者が過去の授業評価の中で表現説明に対して、「もっと例文を示して欲しい」というコメントをもらったためであったが、今回のアンケート調査においてはどのユニットにおいても 65%以上（20名中 13名）の学生が「例文の量は適切である」と考えていることが分かった。

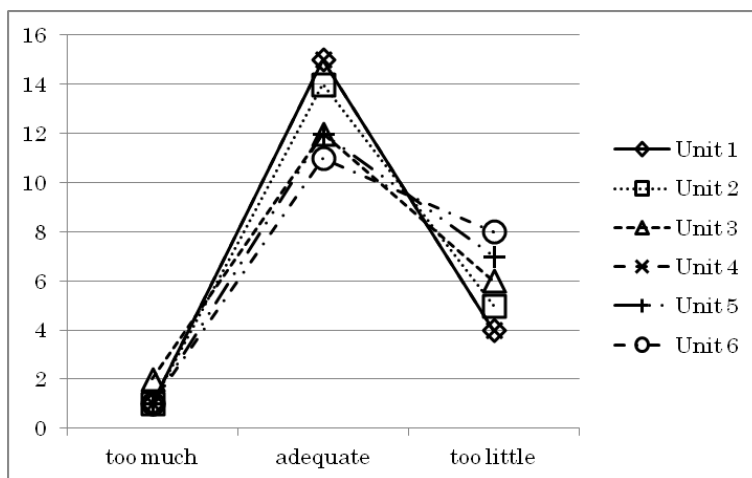
3.3.2.11 表現練習の量について

次の質問は授業で最も時間を使っている表現練習の量についての質問である（質問(12)）。ユニット毎の比較を表すグラフが図 15 である。

この表現練習の量については、Unit 5 と Unit 6 での満足度が低いようである。Unit 5

では、“adequate”が 20 名中 12 名 (60%)、Unit 6 では、20 名中 11 名 (55%) で、“too little”の回答が Unit 5 では、20 名中 7 名 (35%)、Unit 6 では、20 名中 8 名 (40%) であった。この2つのユニットでは、グラフや表を説明する表現が中心となっている。アカデミックの分野、あるいはビジネスの分野においてプレゼンテーションを行う際には、必須のスキルになるわけだが、日常会話で頻繁に出てくる表現ではないため、練習量の不足を実感しているものと思われる。

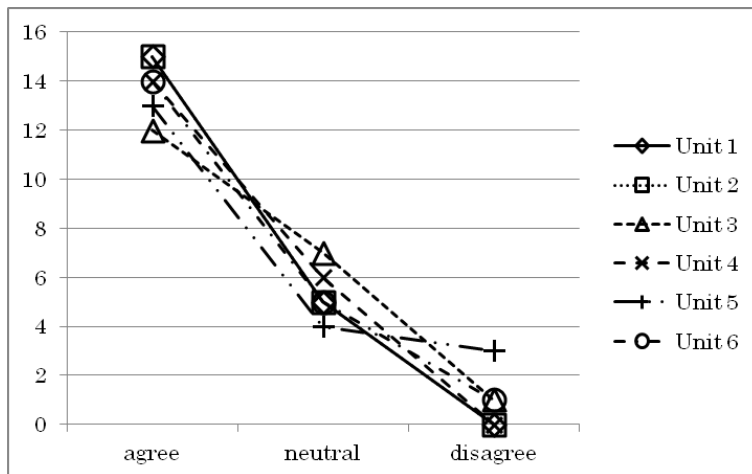
図 15 「表現練習の量」に対する評価のユニット毎の比較



3.3.2.12 表現練習の内容について

その表現練習の内容について聞いたのが次の質問である (質問(13))。ユニット毎の比較を表すグラフが図 16 である。

図 16 「表現練習の内容」に対する賛否のユニット毎の比較



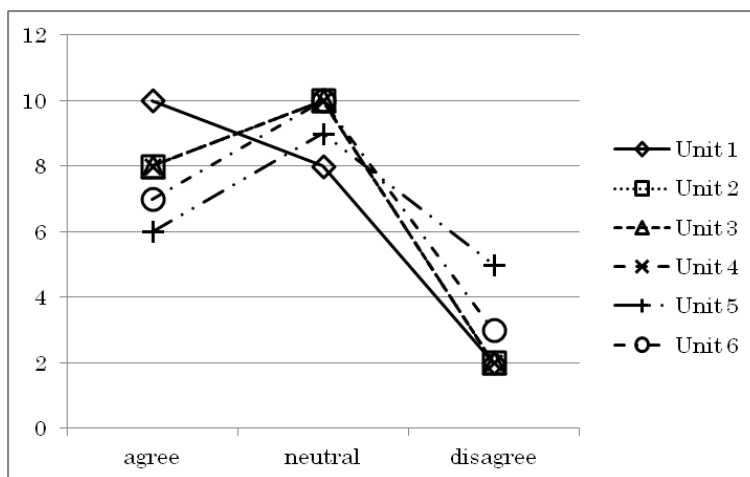
「表現練習の内容がいいと思う」に“agree”の数は、全て 60%（20 名中 12 名）以上になった。“disagree”も全て 15%（20 名中 3 名）以下となっており、内容的には高い満足度を示していると言えよう。

3.3.2.13 聞き取り練習の効果について

最後の 2 つは、聞き取り練習に関連した質問である。聞き取り練習は、ダイアログを録音したものを学生に聞かせ、空欄を聞き取って埋めていくというディクテーションの練習をクラスで実施したり、宿題を課し学生の自主学習として実施したりしている。アンケートでは、「練習の効果」（質問 14）、「会話の速さ」（質問 15）の 2 項目について尋ねた。「聞き取り練習の効果」に対する評価のユニット毎の比較を表すグラフが図 17 である。

どのユニットにおいても「聞き取り練習は効果があると思う」に対する“agree”の数が“disagree”の数を上回ってはいるものの、決して高い満足度を示しているとは言えない。一番高い Unit 1 でも“agree”が 50%（20 名中 10 名）で、一番悪い Unit 5 では 30%（20 名中 6 名）に過ぎない、また、Unit 5 では“disagree”の割合も 25%（20 名中 5 名）と高く、改善の余地のあることを示している。これは、前回の報告でも同様の傾向であったが、聞き取り練習の時間がなかなか取れず、学生の自習に任せる場合が多くなっていることが、この結果に影響を与えていると言える。この問題の解決には、教科書の改訂ではなく、授業計画そのものの修正が必要となってくる。

図 17 「聞き取り練習の効果」に対する賛否のユニット毎の比較

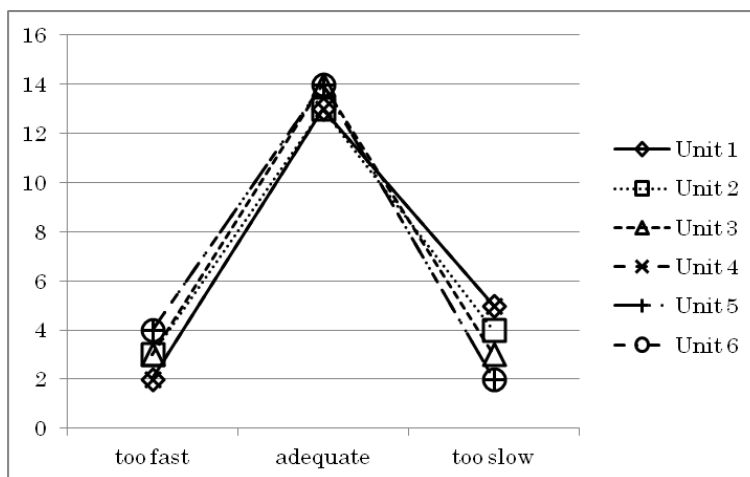


3.3.2.14 聞き取り練習の会話の速さについて

図 19 は、「ダイアログの会話の速さ」に関するグラフである。「会話の速さが、fast か、adequate か、slow か」を尋ねた結果のユニット毎の比較になっている。

会話スピードは、ほぼ natural speed で録音をされているが、前節で述べたようにクラスでダイアログを聞く時間があまり取れていないにもかかわらず、全てのユニットで“adequate”の回答が 75% (20 名中 13 名) を超えており、会話の速さについての不満は見られないようである。

図 19 「聞き取り練習の会話の速さ」に対する評価のユニット毎の比較



3.4 結果のまとめ

以上のアンケート調査の結果をまとめると今回の改訂対象となった Unit 4 を含め JPN6 のモジュール型教材の学生による評価として以下のことが言えそうである。

- (1) トピックとしては、日本のマナーや食など文化的側面に興味が強く、ビジネス関係には興味が薄い。特に留学生の場合、ビジネスに関心のある学生とない学生の差が大きく、Unit 6 で取り上げた「就活」に関しては、好みが大きく分かれる。
- (2) ダイアログの長さには問題がないが、その難しさに関しては、馴染みの薄いビジネス関連の話題である場合には、難しく感じるようだ。単語の数に関しては、単に数だけの問題ではなく、どれぐらい日常的に使用する語彙を含んでいるかということも考慮する必要がある。普段の会話であまり使用せず、コースにおいてのみ出て来るような言葉が多いと学生は単語の数が多く、また難しいと感じてしまう。
- (3) 表現練習に関しては、質、量共に満足度が高いが、単語の練習量はもう少し充

実させた方が望ましい。クラスで確保することが難しい場合は、宿題にして提出させてチェックをするといった形で補うことができるかもしれない。

(4) 表現の説明については、満足度が非常に高い。前回の報告でダイアログの音声の音質への不満が多いということ述べた(宮内 2016)が、その後、吹込みのやり直しを行ったことにより、今回の調査では同様の不満は聞かれなかった。「聞き取り練習の効果」については、授業で取り上げる機会を増やすことによって満足度を高めていく努力が必要である。

4. 今後の展望

今後取り上げて欲しいトピックの中には、前回の調査(宮内 2016)のような“natural disaster”に関する関心は全く見られず、日本の(伝統)文化に関するコメントが多く見られた。さらに、旅行や方言への関心も高かった。次回の改訂候補としては、Unit 5 「インターネットは人類を幸せにしたか？」が考えられるが、新しいトピックとしては、学生が挙げたこれらのトピックだけではなく、今後の世界情勢や日本情勢を見極め、時代の要請に合ったトピックを選んでいく必要があるだろう。

5. おわりに

2014年に行ったUnit 1の改訂、翌2015年のUnit 6の改訂に続き、今回Unit 4が改定されたことに合わせて、学生による教科書評価のアンケートを実施し、その結果を報告した。幾つかの改善点も見つかったが、前回、前々回と同様、全体的には学生の間の評価は高かった。その最大の理由としては、前回の報告(宮内 2016)でも述べたとおり、モジュール形式を取っていることにより、部分的な変更が容易に行えることで学生のニーズに素早く適応できることにあると思われる。今後共、学生のニーズ調査を継続し、また、社会状況の変化なども考慮しながら、必要な改定を行っていけば時代遅れの話題になることなく学生の満足度を高い状態で保つことができると確信する。また、社会の変化にも常に注意を払い、時代の流れにマッチした品質の高い教科書であることを維持していきたいと思う。

参考文献

- 岡崎敏雄 (1989) 『日本語教育の教材』 アルク
高屋敷真人 (2012) 「モジュール型教材による中級後期日本語教科書開発プロジェクト」

- ト」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』22号 pp.119-133.
- 高屋敷真人（2013）「モジュール型教材を利用した中級日本語会話練習—教室内と教室外の言語活動の統合に向けて—」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』23号 pp.131-146.
- 高屋敷真人、宮内俊慈（2016）「モジュール型教材による中級後期日本語教科書開発プロジェクト実践報告（2015）」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』25号 pp.55-68.
- 高屋敷真人、宮内俊慈（forthcoming）「モジュール型教材による中級後期日本語教科書開発プロジェクト実践報告（2014～2017）」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』26号
- 宮内俊慈（2015）「モジュール型中級後期教科書の学生による評価」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』24号 pp.49-69.
- 宮内俊慈（2016）「モジュール型中級後期教科書の学生による評価（2）」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』25号 pp.25-54.

(smyauc@kansai.ac.jp)